



NPO法人ウィッシュ・プロジェクトの村上朋子さん

市内で活躍する  
さまざまな団体  
をご紹介します

# 市民のチカラ

## 思いを「話す」・「聴く」場を通じて 支え合う社会を目指す

NPO法人ウィッシュ・プロジェクト

不登校やひきこもり、発達の特異などを背景に、生きづらさを感じている人は少なくありません。本人だけでなく、家族もまた悩みを抱え、相談先が見つからず孤立してしまうこともあります。そうした人たちに寄り添い、支援を続けてきた市民団体が「ウィッシュ・プロジェクト」です。

活動の原点は、2000年代初頭。村上朋子初代代表は「当時は、不登校やひきこもりについて『親の育て方の問題』『本人の甘え』といった見方が強く、本人が来なければ相談に乗らないと断られるケースも。そうした状況の中で苦しむ親御さんの声を聴くことからウィッシュ・プロジェクトは始まりました」と振り返ります。

支援の中心は「治す」ことよりも、話を聴き、共に考える姿勢です。村上さんは、専門家として答えを示すのではなく、「一緒に考える伴走者でありたい」と語ります。現在は個別相談に加え、より気軽に参加できる場として

「木曜日のネコ」という会を開催。通常のカウンセリングよりも、思っていることを自由に吐き出せる場となっています。

また近年は、フィンランド発祥の「オーブンダイアログ」と呼ばれる手法を、地域の中に広げる取り組みにも力を入れています。「オーブンダイアログ講座」や勉強会などを開催して、市民同士が対等な立場で話をし、聴き合うことで、支援する側・される側という関係を超えたつながりを持つことを目指しています。

こうした長年の活動を通じて、ひきこもり状態が続いていた人が時間をかけて社会との接点を取り戻し、就職につながった例も。活動を続けて20年以上。現在は「地域ケアダイアログ」言葉を編む世界が少し変わる「をキヤッチコピー」に活動を続けています。「支えられているうちに、いつか誰かの支えになる。そんな循環が地域の中に生まれたいですね」。

### NPO法人ウィッシュ・プロジェクト

不登校・ひきこもり・発達障がいなどの当事者、家族の支援を行う団体。「支えあう人の輪を広げ、ともに考え行動し、夢を実現させていく」ことを理念に掲げ、2004年から活動を開始。一人では抱えきれない悩みや問題などを聴き、一人の世界から、相手・家族・仲間とのいる世界へ、自ら歩き出せるまでサポートする。また、講座などの啓発活動も行うなど、孤立させない地域社会の実現を目指している。



オーブンダイアログ講座です



子ども食堂開催時、フードドライブでいただいた食品を毎月配布しています